

第4学年「てつがく創造活動（てつがく）」学習活動案

授業者 久下谷 明

2月15日（土） 3階A室 9:00～9:40

1 題材名 自分の生活や学びを見つめてー「変化って何？」ー

2 題材について

「てつがく創造活動」では、プロジェクト型活動（以下、PJ）とともに、週に1度てつがくの時間を設定し、対話を通して“てつがくする”ことをしてきた。4年生のてつがくは、3年生の時にそれぞれの学級で対話した問いを共有し、自分たちの学びをふり返ることからスタートした。その後、皆で考えたい問いを“個々→ファミリー→学級”で考え、最終的には「神様はいるの？」という問いに決めた。対話を重ねる中で「神様は何のためにいるの？」と問いが変化し、さらに“人を幸せにするため”という考えから「しあわせってなあに？」と問いが変化していった。2学期も同様に皆で考えたい問いを決め、「友だちとは？」から「信頼とは？」と問いながら対話を重ねた。また、このような問いに加えて「ふり返りの視点を考えよう？」（1学期）、「PJをバージョンアップさせるためには？」（あそぶデイで）付箋にコメントを書くのは何のため？」（2学期）といったPJにかかわることも考えてきた。

本単元は上記の流れの中に位置づく。問いを決める際のファミリーから出された問いに着目すると、2学期には「なぜ1人1人こせいやちがいがあるのか？」「個性ってなに？」「自分ってな～に？」といった問いがあり、「友だちとは？」という問いと合わせ、1学期と比べて、子どもたちの問いが“他者との関係”や“他者との関係の中での自分”に向いていることに気付く。

本単元の入口の問いは「変化って何？」である。「PJをバージョンアップさせるためには？」を考えた際には、「PJをやって、自分がどう変わったのかを1・2・3・4年で書いてみる。自分が変わったことと、どうして変わったのかをまとめる。」といった意見が出ている。ふり返れば、変化については、自分や自分の学びを見つめるために、教師の方からも問いかけてきたものである。

「変化」について考える過程において、取り組んできたPJの変化や日々の生活を通した変化、自分の内面の変化などを見つめながら、自分自身を見つめる時間を大切にしていければと思う。また、互いの「自分の変化」を共有することで、これまで知らなかった友達の一面や自分との捉え方の違い（同じ）を知ること、そして、それを通して再度自分自身を見つめることができればと思う。「変化って何？」と問われたら、どのように答えるだろうか。「変化」にはどのような意味があるのだろうか。また、「変化しない」ことにはどのような意味があるのだろうか。皆（教師も子どもも）で「変化って何？」と問いながら、考えることを楽しんでいきたい。

本時は学習活動の6時間目にあたる。対話を通して新たな問いが生まれ、問いが変化していくこともある。その問いの変化や子どもたちの気持ちや思いに寄り添いながら、丁寧に対話を進めていきたい。

3 学習活動計画（6時間目／全7時間）

自分の今の考えをかき、対話する。…1時間

自分の「変化」を見つめる。共有する。…3時間

「変化」について対話を通して考える。…2時間

対話をふり返り、考えをまとめる。……1時間

4 本時の活動について

（1）本時のねらい

「『変化』って何？」と問いながら、対話を通して「変化」について考えることができる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 前時をふり返る。	・サークルの形になって対話をする。/・マイクをコミュニティボールの代わりとする。/・聴くことを意識して対話に参加する。
2. これまでの対話から生まれた問いについて考える。	・必要に応じて、以下のことを行う。 言葉を問い返すことにより、その意味を明確化する。 思いや根拠を問う。/対話してきた内容の整理や確認を行う。
3. 本時をふり返り、さらに自分で考える。	・1人で考える時間も大切にする。